NPO 法人千葉自然学校 ニュースレター

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2020 秋
vol.26

親子でカヌー体験！明るい未来に向かって元気に漕ぎ出そう！！（君津市亀山湖）

もくじ

□不易流行 …2
□ろくすけ日和 …3
□千葉シニア自然大学 …3
□7月～8月の現場レポート …4～5
□受託・ネットワーク事業 …6
□千葉県立君津亀山少年自然の家 …7
□南房総市大房岬自然の家
千葉県立大房岬自然公園 …8～9
□ちば・体験活動ネットワーク
団体紹介 …10～11
□千葉自然学校スタッフ紹介 …12

不易流行

理事長 久保田 康雄

前号を発刊してから半年が経過しようとしています。当時、３月にも新型コロナウイルスの影響は出ていましたが、まさかこのような世の中になるとは思ってもみませんでした。春には、小・中・高等学校が休校となり、企業や様々な団体に休業要請が出され、社会全体が止まったようになりました。そして、子どもも大人も３密をさけ、自宅で過ごすことが多くなりました。日本全体が、機能を停止し、「がまん、がまん」の３か月間であり、本当にストレスフルな毎日でありました。

千葉自然学校は、管理している青少年教育施設の受け入れを停止し、また全ての主催事業を中止しました。そうした中で、夏のキャンプこそは、なんとか実施したいと念じ、準備に時間を費やしてきました。５月の下旬から６月にかけて、コロナ禍の中でも安心安全にキャンプが実施できるように「キャンプの新型コロナウイルス対応ガイドライン」を作成し、その内容をスタッフに徹底させ、受け入れ準備を整えてきました。夏休みが短くなったことで、従来企画していた事業の本数を減らし、また、３密を避けるために、定員を半分に再設定しました。

６月下旬、夏のプログラムの募集を開始しました。するとどうでしょう。驚くことに、日帰りの家族向けのプログラムが数日間であっという間にいっぱいになりました。そして、その影響は、宿泊を伴うキャンプにも広がり、それぞれ定員いっぱいに近い状況になりました。こうして今年の夏は、日帰り家族向けプログラム、子どもキャンプ合計１３本のキャンプが天候にも恵まれ、無事に実施されました。当然、新型コロナウイルス対応ガイドラインを遵守しながら実施したことはいうまでもありません。

７月、８月は、新型コロナウイルス感染症流行の第２波の最中であり、少しでも状況が悪化すれば、参加者からのキャンセルが続出したことでしょうし、また、再度、首都圏に緊急事態宣言が出ることになれば、全てのプログラムは中止せざるを得ない状況にありました。まさに綱渡り状態でした。

新型コロナウイルスに感染しないためには、**密閉、密集、密接の**３密を避けることであります。自然体験活動は、基本的に屋外で行われる活動であるため、密閉空間ではないこと。また、マスクの着用や手洗いうがいの励行やプログラムを実施する際に密集しないようにフィジカルディスタンスをしっかり取るなどの対策したことで、コロナウイルス感染予防を行うことができました。そして、それらの対策については、事前に保護者の皆様に理解してもらうよう配慮したことで、安心してキャンプに参加してもらうことができました。

子どもたちは自然の中で遊ぶことを通して、生きていくのに必要なたくさんのことを学びます。自然の大切さ、友達との付き合い方、自分のことを自分で決定する力、試行錯誤する力。千葉自然学校では、そのような学びの機会を提供し続けます。そして、今後もコロナ禍の中にあっても、しっかりと対策をすることで、自然からの素晴らしい贈り物を受け取れるよう体制を整えたいと考えています。

本ニュースレターを通して、NPO 法人千葉自然学校における 2020 年夏の活動の様子を少しでもお伝えできればと思います。今後も千葉自然学校に対する皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『ろくすけの取り組み』

千葉自然学校では、築190年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

コロナ感染防止が続く中で、ろくすけでは３つの取り組みが始まりました。

１つ目は、物販。すでに畑で作ったそら豆、桑ジャムなど加工品セット販売を終え、これから平群米とおみそ、枝豆、正月用お飾りの注文を受けて郵送予定です。２つ目は希少生物の保全活動。ろくすけを利用してくださる生物の先生の調査によると絶滅危惧種に近い生物の生息もみられるとのこと。池を浚ったりして生息環境を保全する活動が始まりました。３つ目は向かいの山の棚田の活用。棚田はろくすけの目の前にあり大切な景観のひとつになっています。以前から“テントを張りたいね”“そばを作ったらいいね”など利用者の希望が出ていました。このまま荒れてしまっては棚田も、棚田の脇を通って山の畑に通い屋根葺き用の茅を担ぎ下ろした地区の歴史も失われてしまいます。そして、イノシシなど有害鳥獣のすみかになり栽培をやめる田畑がますます広がることでしょう。ろくすけの利用者にも係わってもらいながら耕作放棄地等を活用することで、里山の荒廃や環境保全ができたらいいと地主と相談し、棚田の草刈りをしました。ろくすけの会をはじめ延べ４０人で整備しました。これからテントサイトなど利用計画をみんなで作ります。

利用者も係わりながら、地域の環境保全や再生の手伝いができるくつろぎの場、遊び場を提供する都市農村交流・農泊施設ろくすけを利用者の皆さんと一緒に作って行きたいと活動しています。

（文：遠藤陽子／サニー）

千葉シニア自然大学 「今年度のシニア自然大学」

千葉シニア自然大学は、３月２６日時点で新型コロナウイルスへの対応で、４月開講を６月へと２ヶ月延長することを決定しました。しかしながら、その後の感染状況と収束には時間が掛かり２０２０年度の実施は困難と想定されることから、４月２８日に２０２０年度の開講を中止する事にしました。９０数名の受講者の皆様と担当の先生方へ１年間中止する旨の連絡をいたしました。

このため、キャンセル者への授業料の返金手続きを行いましたが、多くの方々がそのまま次年度に繰り越しされています。２０２１年度はｗｉｔｈコロナで対策しつつ４月の新学期から開催できればと思われます。

さて、このような状況から待機中の方々へ３密対策をとりながら、特別講座を実施する事を企画しています。一つは、佐倉圃場でのサツマイモと落花生の収穫体験。もう一つは、南房総の伝統の技を学ぶ正月飾り作りです。

来年度の本科コースの野菜づくり授業では、６月初旬に佐倉圃場で畝作り、３種類のサツマイモとオオマサリの落花生を植える実技と、１０月にそれを収穫し、その収穫物とバーベキューなどで収穫祭を行う予定です。

今回の特別講座は、事務局で植えた物を収穫体験してもらいます。楽しみの収穫祭は出来そうもないですが、沢山の収穫物を持ち帰ってもらいます。

正月飾りは、こちらも本科コースの伝統の技を学ぶ実技授業で、藁を打ち、本格的な正月飾りを作成し持ち帰ってもらいます。

コロナ禍での特別講座なので少人数での実施となりますが、楽しんで頂きたいと思っています。

（文：吉岡章次）

７月・佐倉圃場のさつまいもと落花生。
順調に育っています！

7月～8月 主催事業現場レポート

親子

家族で海チルアドベンチャー！

海辺の秘境アドベンチャー

7/23(木),24(金),25(土),26(日) 大房岬自然公園、大房岬自然の家 ◆ 親子 ◆ 海岸線の秘境探検

南房総の海岸線を泳いだり、磯場を越えたり、飛び込んだりしながら突き進むアクティビティ。ダイナミックな自然環境だからこそ味わえる経験や感動があります。参加者の皆さんは果敢に、また自然を味わいながらチャレンジしていました。そして、海は各日違った顔を見せてくれました。海の素晴らしさや畏怖を感じられた活動になりました。

親子

亀山湖カヌーツーリング

7/23(木),24(金),25(土),26(日) 亀山湖 親子 ◆ 亀山湖のカヌー体験

２５日は天候不良で中止になりましたが、残りの３日間は天候に恵まれ多くの方にご参加いただきました。初めてカヌーに乗る家族も多かったですが、徐々に慣れて、のんびりと湖面散歩を楽しまれていました。中には一人乗りのカヌーでのびのび自分の力で漕ぎ進めていた子どももいました。なかなか遠出しづらかった今年の夏、親子で楽しい時間を過ごしてもらえていたら幸いです。

亀山湖の景色にも癒されました♪

こども

夜を明かすビバークに挑戦！！

サバイバルキャンプ

8/8(土)～10(月)施設泊/ビバーク泊 大房岬自然の家 ◆ 小学生 ◆ 海遊び、岬探検、ロープワーク、タープ設営、たき火

大房岬に集結した１１人の少年たち。岬の突端まで探検して岸壁の荘厳さや海の美しさを感じたり、ロープワークに苦戦しながらも一生懸命設営したタープの下でビバークをしたりと、盛りだくさんの３日間でした。みんなで囲んだ焚き火やきらめく星空、海の気持ち良さは、きっと彼らにとって忘れられないものになったはずです。

ちょっぴりドキドキのビバーク。暗闇の中、協力してタープを張ることができました。

こども

昆虫博士キャンプ

8/10（月）～12（水）　君津亀山少年自然の家
小学生 ◆　虫捕り（きみかめ、大山千枚田/ライトトラップ/昆虫スケッチ講座/昆虫標本作り講座

毎年人気のキャンプ。今年は大山千枚田にも行きました。きみかめは森の中、千枚田は田んぼや川が中心です。いろいろな場所で多くの虫と触れ合った３日間でした。虫を捕るだけではなく、スケッチや標本の作り方もばっちりマスターできました。これでみんなも昆虫博士の第一歩を踏み出しました！

プロに教わって昆虫標本作り。みんな上手に出来ました♪

こども

夏だ！森だ！秘密基地だ！

アウトドアキッズ～秘密基地づくり～

7/18(土)～19(日) テント泊 君津亀山少年自然の家
年中～年長、小学生　◆秘密基地づくり/たき火/夜の森探検

テントに名前をデコレーションしたり、限られた材料でブランコを作ったりと各班工夫に富んだ秘密基地を作り上げました。夜は森探検でカブトムシやシカなどの森の仲間に出会うことが出来ました。キャンプを通して仲間と生活をともにする楽しさや、自然の中で協力しながら一つの成果物を作り上げる達成感を感じてもらえれば幸いです。

森探検でノコギリクワガタを発見！

こども

ろくすけ野遊び塾

夏の里山里海キャンプ

8/18(火)～21(金) 古民家泊 古民家ろくすけ
小学生　◆里山遊び/海遊び/川遊び/たき火/星空観察

古民家で家族のように過ごした晴天続きの４日間。日が暮れるまで昆虫を探したり、ヤドカリを沢山捕まえたりと、子どもは目をキラキラさせて思いっきり遊んでいました。一つ屋根の下で過ごす生活は子どもが自然とお互いを思いやりながらすぐに仲も深まり、笑顔いっぱいの里山で過ごす夏の思い出となりました。

夏の古民家ろくすけの周辺は楽しい発見がいっぱい！

≪受託・ネットワーク事業≫

海と日本プロジェクト in 千葉県
BO-SO 海のめぐみ発見隊 9月19日(土),20日(日),26日(土)

海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進するプロジェクト「海と日本プロジェクト」。千葉自然学校が千葉県版の体験コーディネートを請け負って３年目となります。

今年は２４名の子どもとイワシと醤油の文化を学びに、九十九里町での地引網体験やイワシ資料館見学、銚子の漁業や醤油の文化など盛りだくさんの内容で実施しました。体験中、子どもは記者に扮し体験先で写真を撮影し、講師の方にインタビューを行いました。イワシの伝統的な漁や使われ方、海と醤油のつながり、海に起きている現状など歴史や文化、環境問題について一生懸命取材している様子が見られました。

最後は班ごとに分かれて体験した内容を新聞記事にまとめました。慣れない作業で苦戦しながらも、班の友達と話し合うなど一生懸命考えながら取り組んでいました。

今回の体験を通して海に起きている現状を自分事としてとらえ、これからの生活の中で海を身近に考えるきっかけとなってもらえたら幸いです。

（文：山崎大地／だいすけ）

「ろくすけ」生き物多様性保全の取り組み

今年度、古民家「ろくすけ」では、一般社団法人千葉県環境財団の環境活動支援事業を用いた生物多様性保全の取り組みとして、池の整備イベントや観察イベントを行っています。夏の間は講師の先生を招いて子どもたちと一緒にライトトラップ（光に集まる昆虫捕り）や里山の昆虫探し、池の生物の調査などを実施しました。池の調査ではろくすけ未確認の「トウキョウサンショウウオ」の幼生を発見！千葉県内では最重要保護生物として登録されている貴重な生き物です。初めてサンショウウオを見る子も多かったので、みんな興味津々で観察していました。

今後は、既存の池の清掃・改修、そして蔵の裏に新たな池を造成する予定です。ろくすけ周辺により多くの生き物が集う場所になるよう、整備していこうと思います。池作りに興味があり、一緒に整備してみたいという方いらっしゃいましたら、是非当校までお問い合わせください。

（文：山崎大地/だいすけ）

千葉自然学校での取り組み

新型コロナウィルスの影響で自然体験やキャンプが延期・中止となり、千葉自然学校を含む全国の自然学校も経営危機に直面しました。そんな中、日本環境教育フォーラムが中心となり、全国の自然学校が協力してクラウドファンディング「自然学校エイド基金」が立ち上がりました。

また、アウトドアセレクトショップ「NICETIME」さんからはチャリティＴシャツ販売という形で応援していただいています。応援してくださる皆様との繋がりに感謝し、今後もよりよい体験活動の場を作っていきます。

そして、自然学校では今年からオンラインショップを開始しました。古民家「ろくすけ」では旬の味覚、「大房岬」からは昨年秋に皆様から多くのご支援をいただいた台風被害時の倒木を活用した商品などをご用意しています。季節によって変わる商品もありますので、ぜひチェックしてみてください。

（文：佐藤玲子/かつを）

チャリティ
Ｔシャツ
はこちら⇒

オンライン
ショップ
はこちら⇒

～きみかめ便り～

千葉県より指定管理を受け､｢君津亀山少年自然の家｣の管理・運営をしています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ､最大宿泊者数３００人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり､カレーや石窯ピザなどの野外調理､思い出のクラフト作成など４７種類ものアクティビティをご用意しております♪

千葉県立君津亀山少年自然の家

千葉県立君津亀山少年自然の家　所長 庄司達哉

「身近な生き物」

ヒメヒオウギスイセン

皆さんは自分の家のまわりに植物、昆虫、動物などどのくらいの生き物がいるか、知っていますでしょうか。先日、家の裏にオレンジ色の花が咲いているのを見つけ、気になり、図鑑で調べてみました。それから家の近所にはどんな生き物がいるのか、7月の中旬から時間の空いた時や犬の散歩がてらに植物や昆虫などを写真に撮って、名前を調べて…。約2か月の間に植物は57種、昆虫は48種を見つけることが出来ました。「雑草という草はありません。どんな植物でもみな名前があって、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる。人間の一方的な考え方で、これを雑草として決め付けてしまうのはいけない。」とは昭和天皇のお言葉です。通いなれた道に咲く花や生き物たち、名前が分かると愛着が持てるようになります。

きみかめ掲示板

【イベント報告】

7/18(土)～19(日)　自然の家に家族で泊まろう!!

今年の夏限定で家族利用のプランを実施しました。

今回は新型コロナウイルスの影響を考慮して、家族ごとにアクティビティを選択しての活動となりました。

体験アクティビティは森のブランコ、ハンモック、昆虫観察、秘密基地づくりなど自然を遊びつくすメニューが盛りだくさんで、大人も子どももきみかめの自然を満喫していました。

そのほかにもバードコールづくり、勾玉づくりなどのクラフト活動やスタッフによるプラネタリウムの投影、たき火でマシュマロ焼きのサービスなど、夏の思い出がたくさんできました。

【自然情報】

秋の鳴く虫

スズムシ

朝晩と涼しくなってきた今日この頃、きみかめでは薄暗くなると子どもたちの笑い声の合間に、コオロギの仲間やウマオイ(スイッチョン)、マダラスズ、スズムシなどの秋の虫の音を感じる事が多くなってきました。みなさんも夕暮れ時に思い切って網戸にして、秋の涼しい風と共にきこえてくる優しい虫の音に風情を感じてみてはいかがでしょうか。

～たいぶさ便り～

・南房総市大房岬自然の家
・千葉県立大房岬自然公園

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営をしています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。

南房総市大房岬自然の家　所長 神保清司

日本近海の海水温が高い状態だといわれています。

確かに今年７月に海に入った際もいつもより温かく感じました。入水時の「ヒョーッ」と一瞬縮み上がる感じがありませんでした。

さらには海中を覗くとソラスズメダイやオヤビッチャ、チョウチョウウオの仲間など、いわゆる熱帯魚といわれるような南方系の色とりどりの魚たちもいつもより数が多いように感じました。

一見、亜熱帯リゾートの様相を呈してきた南房総の海ですが、喜んでばかりもいられません。台風が強大化する要因にもなり、海藻（海草）も育ちづらくなり…地域の生態系への影響が大きいんです。

そんなことも教材として地球のこれからを子ども達と考えられる環境づくりしてみたいと思います。

千葉県立大房岬自然公園　公園長 山口亮介

昨年の台風15号で大房岬は大きな被害が出ました。

木々は倒れ、または途中で折れ、風景が一変しました。

台風後の復旧作業においては、折れた木々が何とか再生してくれるように折れた断面をきれいに伐採しておりましたが、今年の春から夏にかけて伐採した断面からしっかりと芽吹いてくれていました。

自然の再生能力にはいつも驚かされます。

この芽吹きが新たな森へと成長していく様子をしっかりと見守っていきたいです。

南房総市大房岬自然の家食堂（株式会社 体験と健康）
料理長 松田光央

新型コロナウィルスにより、食堂もいろいろと対策を練り、従来のやり方から変えていかなければならなくなりました。大房食堂では、テーブルの真ん中にシートを張り、向かい合って座って利用出来るようにしました。また、お客様の要望がありましたら、夕食・朝食のお弁当での提供も開始致しました。

君亀食堂では、お客様のセルフの盛り付けではなく、おかずは職員で器に盛り提供し、食堂での一度に入室できる人数を半数にして間隔をあけての対応をしています。

両食堂共に、職員の健康管理の徹底・細めなアルコール消毒をして、食事以外にも安心と安全を提供していますので、是非ともご利用して頂きたいと思います。

taibusagram

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します！

いいね！627件

Taibusa-misaki

プラネタ廊下の壁画

いままで何も展示のないコルクボードの並んでいたプラネタリウム室廊下に、壁画が描かれました！

描いていただいたのは自然の家スタッフと関係ある方のつながりでお手伝いいただくこととなりました。

週に１回、何度も来ていただき描きあげていただきました。

窓の外から見える場所に、長さ10mほどで大房岬内の景色をダイナミックに描いていただきました。

また、大房岬に住む生き物たちの毛並みやツヤが感じられるリアルな姿も描いていただきました。

ぜひこの超大作を見に来てください！

#大房岬自然の家　#すごいリアル
#自然の家の見どころスポット　#お手つき厳禁！

たいぶさ岬掲示板

イベント報告

2020/8/15（土）

星空ナイトシアター2020

今年度も岬の森を舞台とした物語、「岬の森の大親友」を上映しました。今作のモデルとなったのは、昨年の台風15号で実際にあったエピソードです。復旧ボランティアなど、お力添えいただいた皆様へ、感謝の気持ちも込めて上映いたしました。天候にも恵まれ、最後は満天の星空を観察することができ、とても神秘的な時間となりました。

イベント報告

2020/8/10（月・祝）

カブクワの森づくり

カブクワの森づくりの第２回目でした。カブクワ牧場にどんな生き物がいるか掘り返してみるとカブトムシの幼虫が！期待がふくらむ中、トラップや樹液の出るポイントをまわると、クワガタをたくさん捕まえることができました。カブクワ達の生態と生きるための環境を感じ体験してもらうことができたのではないでしょうか。

生きもの紹介

ヒガンバナ

ヒガンバナは９月の中旬から下旬にかけて公園内のいたるところで咲き始めます。ヒガンバナはほかの植物とは違い、葉っぱが地面から出る前に花が咲きます。球根には毒がありますが、昔は毒を抜いて食用にしたり、虫除けや漢方として使われていたそうです。秋に大房岬に来た際には、一斉に咲いているヒガンバナをぜひ楽しんでください。

千葉を元気にする会員校をご紹介！

≪ちば・体験活動ネットワーク≫

千葉自然学校は、**ネットワーク型自然学校**として
『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、**『千葉自然学校ネットワーク会員校』**としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。
県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

（有）銚子海洋研究所
宮内 幸雄さん

里海　自然体験　生物

（有）銚子海洋研究所では、銚子を拠点としてイルカ・クジラウォッチングを行っています。親潮と黒潮がぶつかる銚子沖では季節によって様々な鯨類が見られるそうです。今回は団体を設立した経緯や、今後のイベントについて伺いました。

イルカ・クジラウォッチング事業実施を目的に、銚子海洋研究所を設立して今年（令和２年）で２２年になります。元は、地元水族館で飼育技師として２３年間、大きな生物はゴンドウクジラ（６ｍ）、イルカ、アザラシなどの海産哺乳類から、小さな生物はメダカや２cm 足らずのウミウシ類まで、多種多様な水生生物の飼育展示を行なってきました。

今から３０年前、水族館勤務時代のある日、付き合いのある地元漁師から「銚子の海にもイルカはたくさんいるぞ」という一言で、その後の人生が一変したと言っても過言ではない光景を目にすることになりました。

銚子の海にたくさんイルカがいる！？それなら一度一緒に海に連れて行ってくれとお願いし、実際半信半疑の気持ちで外洋に出た時の事、突然目の前に出現したイルカ（カマイルカ）の大群（８００～１０００頭）に、ただただ呆然と野生のイルカ達の躍動感を感じながら、海という大自然を、そこに息づく野生動物への畏敬の念というものを覚えたことを今でも記憶しています。

その日以来、水族館勤務の１０年間は何かに憑かれたかのように銚子沖のイルカやクジラの生息調査、イルカ・クジラウォッチング実施の為の季節的変動調査を経て、長年お世話になった水族館を退職し、１９９８年（平成１０年）に（有）銚子海洋研究所を設立し、たくさんの方々にイルカ・クジラ達との出会いという感動体験の場として現在に至っています。

これまで２３年間、水族館で多種にわたる水生生物と共に過ごし、現在気が付けば２２年の間「海」と「野生生物」との出会いに明け暮れた日々を過ごし、これからも彼らとの出会いを求め続けていこうと思います。水族館と海、この４５年間という年月は、生物達に、また大自然の「海」に生かして頂いたことを今実感しています。

昨年１１月のホエールウォッチングで出会えたクジラの姿(頭部後方より胸ビレを囲むように太いロープを巻き付けた状態）が、あまりにもショックで、間違いなく彼らを苦しめている海の実情を見た時、今度は海の為に、そこに暮らす生物達の為に何か出来ないか、私たちが出来ることから始めてみようということで、今年１月より計画を作成し、８月に第１回実施となる**「海洋ゴミ回収プロジェクト」**を開始しました。月に１回、回収出航日を決め、一般参加者を募り、ウォッチング船からゴミ類を回収するプロジェクトです。世界的に問題となっている海洋ゴミを、まず目の前の海から少しでも、微力ですが実行していきます。未来の子ども達に、いつまでも青い海を残す為にも、この活動は続けていきます。

【お問い合わせ先】
０４７９－２４－８８７０

ヤックス自然学校
小松　敬さん

キャンプ　人材育成　自然体験

ヤックス自然学校は、株式会社千葉薬品グループ（ヤックス）が、多くの子どもに、自然とのふれあいの中で、明るく健康に育ってほしいと願い、1976 年から企業の社会的責任（CSR）の一環として、都会では味わえない四季折々の広大な自然の中で自然体験活動を提供してきました。普段、学校や家庭では体験できない自然体験と異年齢集団での生活を大切に継続的に取り組んでいます。年間延べ約 5,000 人以上の参加があります。

【2020 年度サマーキャンプの報告】

コロナ禍の中、休校などで自粛を余儀なくされている多くの子どものために、多くのご支援とご協力を頂きながら１泊２日～７泊８日のサマーキャンプを千葉県長南町、南房総市、長野県小谷村で実施することができました。

（キャンプ本数：１０本、参加者数：１８９名、延べ人数：６３１名）

また、自然体験活動を実施する上でガイドラインを作成し、スタッフやボランティアが現場で対応できるよう独自のマニュアルをもとに運営しました。

世間からは、ご指摘もありましたが、募集人員やバス乗車定員を半分程度に抑えるなど、３密を避ける、ソーシャルディスタンスを保つことに努めました。結果、ひとりの体調不良者を出すことなく、キャンプを未来へ繋げることができました。

【秋以降の活動】

秋以降もキャンプを実施！まだまだ参加者募集中です。また、毎年開催していた「サマーキャンプ思い出会」を９月末に ZOOM で開催予定！初の試みなのでどうなるかは未知数です。当日の様子はブログなどチェックしてみてください。

かやぶき屋根の古民家に泊まろう！

＊ホームステイ～仲秋編～

対象：小中学生

日程：10/17（土）～10/18（日）

＊ホームステイ～晩秋編～

対象：小中学生

日程：11/21（土）～11/23（月）

ぽかぽか遊火（あそび）キャンプ

対象：幼児小学生

日程：11/7（土）～11/8（日）

【お問い合わせ先 HP】
http://yacs-ns.jp/

【北総エリア】

•ワイズスノー＆アウトドアスクール •NPO 法人佐倉みどりネット •一般社団法人千葉県環境財団 •千葉伝統郷土料理研究会 •さんむアクションミュージアム
•一般社団法人千葉県観光公社 •ヤックス自然学校 •林造園土木株式会社 •株式会社 HMC 東京旅行事業部 •有限会社銚子海洋研究所 •ピーちゃんクラブ
•ぬく森くらぶ •食と農の体験工房「よもぎ館」 •国民宿舎サンライズ九十九里 •「わたしの田舎」谷当工房 •スコープジャパン株式会社
•ちば千葉国際コンベンションビューロー •東京クラシッククラブ

【上総エリア】

•Live Stock •環南みんなの楽校 •ひらつか地域活性化協議会 •上総自然楽校 •森林塾かずさの森 •千葉県立内浦山県民の森
•NPO 法人市津•ちはら台自然学校 •特定非営利活動法人ちば里山センター •NPO 法人里山会 •株式会社かずさアカデミーパーク •NPO 法人大山千枚田保存会

【南房総エリア】

•一般社団法人森のようちえんはっぴー •NPO 法人たてやま•海辺の鑑定団 •岩井民宿組合
•白浜オーシャンリゾート •NPO 法人安房文化遺産フォーラム •株式会社ちば南房総 •道の駅三芳村•鄙の里
•道の駅大津の里 花倶楽部 •株式会社富楽里とみやま •千葉県立館山野鳥の森 •千倉町民宿組合
•千倉オレンジセンター •道の駅とみうら•枇杷倶楽部 •ローズマリー公園

一緒に千葉を元気にしませんか？
会員校募集中！
【お問い合わせ先は裏面をご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

長瀬　詩緒理（ちゅん）　千葉県立君津亀山少年自然の家勤務

山形県米沢市出身。自然が大好きで、よく野鳥観察や散歩をしています。その中で新しい発見や気づきを見つけるのが好きで、そんな体験を多くの人に伝えたいと思い、千葉自然学校に入りました。自然豊かなきみかめの森で遊んで、色んなことを体感してください！そして、少しでも自然に興味をもってくれたら嬉しいです。

きみかめに来て一緒に自然の中で遊びましょう！お待ちしています。

【有資格】
- プロジェクト・ワイルドエデュケーター（本編、水辺編、鳥編）【一般財団法人公園財団】
- プロジェクト・ウェットエデュケーター【一般財団法人公園財団】
- 生物分類技能検定３級【一般財団法人自然環境研究センター】
- ビオトープ管理士２級　施工部門【公益財団法人日本生態系協会】
- 環境社会検定試験【東京商工会議所】

【得意分野】
展示／グッズ作り

【好きなこと】
野鳥観察／写真／散歩／図鑑をながめること

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ
- だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- 地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

～ご寄付のお願い～

当法人の活動趣旨にご賛同いただいた企業・団体・個人の皆様からのご支援をお待ちしております。（一口3,000円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）
振替口座　00170-5-259431
加入者名　特定非営利活動法人　千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）
千葉銀行　千葉駅前支店　普通　3740275
特定非営利活動法人　千葉自然学校　理事長　久保田
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。

寄附団体ご紹介

- 学校法人中村学園ハッピースイーツ製菓専門学校　様
- 有限会社かしわや食堂　様
- 林造園土木株式会社　様
- 公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー　様
- スコープジャパン株式会社　様
- 株式会社 HMC 東京 千葉営業所　様
- 株式会社戸倉商店　様
- 株式会社富楽里とみやま　様
- ＮＰＯ法人国際自然大学校　様
- 有限会社原園芸　様
- 税理士法人 Tax ジャパン　様

他（順不同）

発行：**NPO法人　千葉自然学校**

■千葉事務所　〒260-0015　千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル７階
電話：043-227-7103／FAX：043-202-7237
ホームページ：http://www.chiba-ns.net　メールアドレス：info@chiba-ns.net